道東太平洋海域におけるカタクチイワシの卵・仔魚の分布

三原　行雄

1982～1992年の道東太平洋におけるカタクチイワシの卵・仔魚の分布について調査した。

卵は1988年に，仔魚は1990年から採集され，分布量，分布域とも1992年が最大であった。仔魚は全てが後期仔魚で，孵化後1～2週間前後のものが多く，このことから本種が当海域で産卵し，発生していることが示唆され，その産卵盛期は8月前後と推測された。北部海域で産卵が確認されたことは，1988年以降見られている成魚大型群の出現に由来するものと考えられ，このことから近年，本種の資源が回復していることが示唆された。

A234　北水試研報 44　1－8　1994

北海道野付湾におけるアサリの初期成長と沈着期について

中川義彦・伊藤　博

野付湾のアサリ増殖場で，1992年7月から12月に産卵期を，1992年9月から1993年7月にアサリの初期成長と沈着期を調べた。野付湾のアサリの産卵期は7月中旬から9月上旬で，沈着期は8月中旬から10月中旬であった。沈着期の稚貝の最小殻長は250μmであった。沈着後稚貝は12月上旬まで順調に成長し，平均殻長が1,025μmに達した。しかし，以後3月上旬まで成長は停滞した。3月上旬に1,172μmであった平均殻長は5月中旬に1,710μmに達し，その後急速に成長して産卵開始後約1年経過した7月中旬に4,299μmとなった。

A235　北水試研報 44　9－18　1994

免疫学的沈降法によるヒラメの雌雄判別法

三浦宏紀・草刈宗晴
高野和則

雌ヒラメ血清に対する家兎血清並びにヒラメ卵に対する兎血清を用いたオクタロニー法により，人工種苗養成ヒラメの雌雄判別を試みた。本法は卵巣成熟中の雌の血中に存在する雌特異血清蛋白を抗血清で検出することによって雌を判定するものである。卵巣が成熟途中である10月と11月に2⁺歳魚並びに3⁺歳魚で試験を行った結果，雌雄を正確に判別することができた。

A236　北水試研報 44　19－23　1994

海中かごで飼育された0歳トヤマエビの成長（短報）

中明幸広・杉本　卓

飼育下の親エビからふ化した0歳トヤマエビを海中かごで飼育し，成長について検討した。その結果，ふ化後半年で甲長が7～10mm，1年後には14mmに達することが明らかになった。このことにより，従来の日本海とオホーツク海における天然トヤマエビの年齢と成長に関する推定結果が妥当であると考えられた。

A237　北水試研報 44　25－27　1994

北海道後志の泊沖で標識放流されたソウハチの移動（短報）（英文）

富永　修，渡辺安広

1992年５月30日に標準体長183㎜～273㎜（平均217.5㎜）のソウハチ308尾にスパゲティチューブタグ（全長30㎜，チューブの長さ15㎜）を装着して，後志支庁管内泊村沖に放流した。1992年６月から1993年８月までに８個体が再捕された。８個体のうち５個体は放流海域から５㎞以内で再捕されたが，残りの３個体は放流海域から60㎞以上離れた地点で再捕された。長距離移動した３個体のうち２個体は1993年５月と８月に放流海域よりも北側の石狩湾で再捕された。両個体ともに雄の成熟魚で，北方向への移動は再生産のための移動と考えられた。

A238　北水試研報 44　29－31　1994

北海道福島町の矢越岬沖合におけるソウハチ漁業と漁獲物（短報）

田中伸幸

1985年以降の津軽海峡内の北海道沿岸域におけるソウハチの漁獲量と漁業実態，漁獲物の体長組成，性比を調べた。漁獲量の大部分は，吉岡，福島町，知内町漁業協同組合が矢越岬沖合から福島町岩部沖合で漁獲したもので占められていた。漁獲物の体長組成は，雄の範囲が19㎝から25㎝台でモードは21㎝台，雌の範囲が21㎝から30㎝台でモードは24㎝台であった。性比は雄：雌＝約３：７で性比に差がみられた。

A239　北水試研報 44　33－35　1994